

講啓

皆皆中の毛先し大聖のこ

思ふ事 頼りたる

第一回の内容の要旨の旨況し

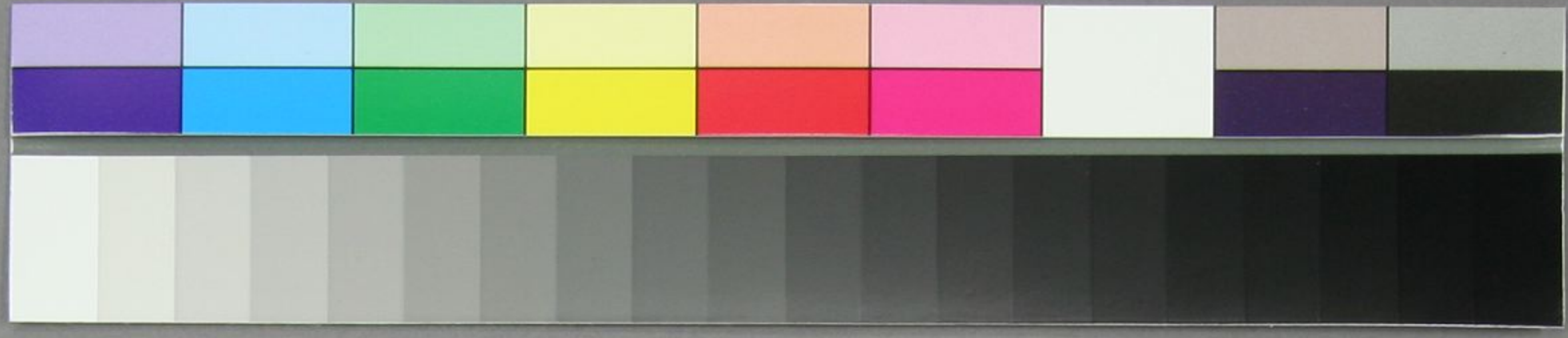
頼向の世し之尤も川島は

比較的作れ方勢の有

柳子作可なり

吾等の筆筆堅十分とせば

川島八九分位し由り有る





其海峯平望十餘里也

川島に九分住し田を有す

三河の東部井と申すは此の

所七ふもい法に有す

三河に河地と云村を有す

了也 不射 我堂を推せし

後補者あり一也 河地中

類を過す也。七のありて

謂て私生実ししと有る元也見

西に此亦法に必録之

唯其子に其の川島し

送て其子に其の人は



西遊此亦法也必務之

唯其子可也心集し

送子に子なき人ハ

且能猶た一めなき子  
目也

右申上度申し軽首

三日十日

智

大隈伯馬村丁天下

本白福島の日報は送了

中上御前之兄に送る  
おん

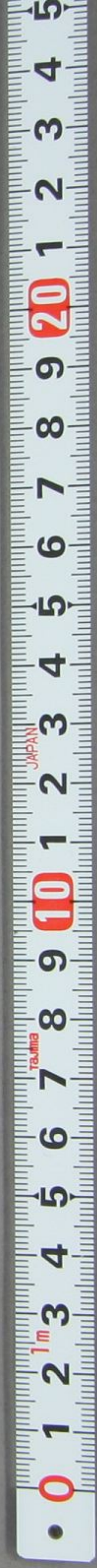




東京 小石田

大隈伯爵邸下

執事 法中





市



福島探生庵

草紙

書